

ベルアドワイズ（名古屋市中区）は看板資材・

広告資材の企画制作・販売を行っている。この5月から自社製品の看板資材、開閉式FF行灯看板フレーム「パノラマフレームZERO」の販売を強化。ただ、素材そのものは20年以上前から扱っており、一時期、売り上げが落ちたこともあった。



電飾看板に最適

店舗の入り口の上に置く電飾看板は、以前はアクリル板を何枚か継ぎ足して作っていた。アクリル板は光の透過性があるので、中に蛍光灯を入れて看板を光らせる。それが「FFシート」という樹脂製素材に変わった。

FFシートはもともと海外から輸入された素材だったが、同社では約20年前、看板素材として使い始めた。

FFシートは数十メートルあり、ロール状になっている。必要だけ裁断すれば良いので、アクリル板のようなつなぎ目ができない。また、アクリル板は重量があり、面積が大きいと自重で反ってしまうこともあった。寒暖での伸び縮みもあり、つなぎ目に隙間ができることも。だが、FF

競合品が安価で出回る

シートはそういったことが起こらない素材として歓迎された。

また、アクリル板は台風や地震などで破損すると危険だが、FFシートは柔軟かつ軽量で安全性も高い。当時は携帯ショップが増えた時期で、FFシートはそうしたショップの電飾看板の素材として普及した。だが、競合品が登場し、安価で出回るようになった。

「影」が出ない
もともと同社のFFシートはコーティング加工が施され、汚れがつきにくくなっていた。安いものはそうした加工もされていない場合が多く、変色やカビの発生などのトラブルも起こっ

た。だが、価格重視の傾向があったため、同社のFFシートは次第に売れ行きが落ちていった。そこで、枠のコーナーの強度を高めることで、3×3以上の大きさでも柱が不要な構造を実現。この技術と防汚性などを改めて試験で実証し、自信を持ってPRしていくことになった。

実証試験で高品質アピール



「パノラマフレームZERO」の使用例。課題とは「影」だ。

電飾看板の光源も蛍光灯からLEDに変わってきている。LEDと蛍光灯では光の特性が違い、LED光源の場合、看板の枠の影が看板に写り込んでしまう。看板が大きいと、枠が歪曲しないように支える柱が必要になるが、その柱の影が

た。だが、価格重視の傾向があったため、同社のFFシートは次第に売れ行きが落ちていった。そこで、枠のコーナーの強度を高めることで、3×3以上の大きさでも柱が不要な構造を実現。この技術と防汚性などを改めて試験で実証し、自信を持ってPRしていくことになった。

さらにもう「O」として展開。今まで扱った課題を解決することで、付加価値を増やした。（おわり）

ベルアドワイズ

FF行灯「パノラマフレーム」
看板フレーム